

俳句通信

特別作品25句 今瀬剛一
「去年今年」



特集

〈口語俳句について〉

神野紗希 「透明な私、他者としての口語」

坪内稔典 「口語をころがして」

池田澄子 「普通の言葉——私の場合」

中山世一 「口語と俳句」

酒井弘司 「まず、五七調の定型を優先」

三宅やよい 「十七音の合わせ鏡」

大井恒行 「時代の先端はいつも口語だった」

中村和弘 「俳句は詩である」

【新主宰近作20句】

浅井陽子 「古暦」

前田攝子 「雪見障子」

【精鋭作家競詠20句】

大島英昭 「従兄の名前」

平栗瑞枝 「吊橋」

鈴木五鈴 「葛湯吹き吹き」

●作品● 山崎ひさを・安原 葉・名和未知男・友岡子郷・山崎千枝子・広渡敬雄・平木智恵子・
川崎慶子・伊達甲女・山元志津香・奈良文夫・塩野谷 仁・岩城久治・瀬戸清子・高橋道子 ほか

森 澄雄 全集 (全五卷)

各巻定価：本体12,000円+税(分冊不可)

セット価格：本体60,000円+税

全五巻(一・二巻=俳句、三～五巻=散文)

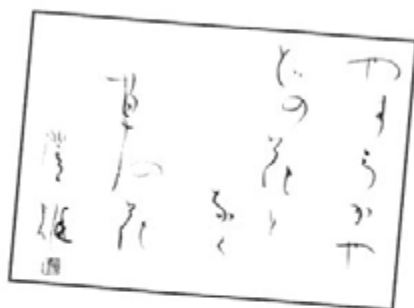
A5判上製 カバー装 セット函入 1冊約640頁平均

■ 一・二巻 俳句

全十五句集を完全収録。拾遺・資料・季語別索引付。

■ 三～五巻 文集

句業に沿うように各巻を編集。二十代の小説、壮年期の俳論・随筆、最晩年の俳話まで、澄雄の軌跡を明らかに。



監修・森潮
協力・「杉」同人会
発行・ウエップ

【申し込み先】

〒一六〇〇〇〇三三

新宿区新宿一―二四―九〇九

ウエップ

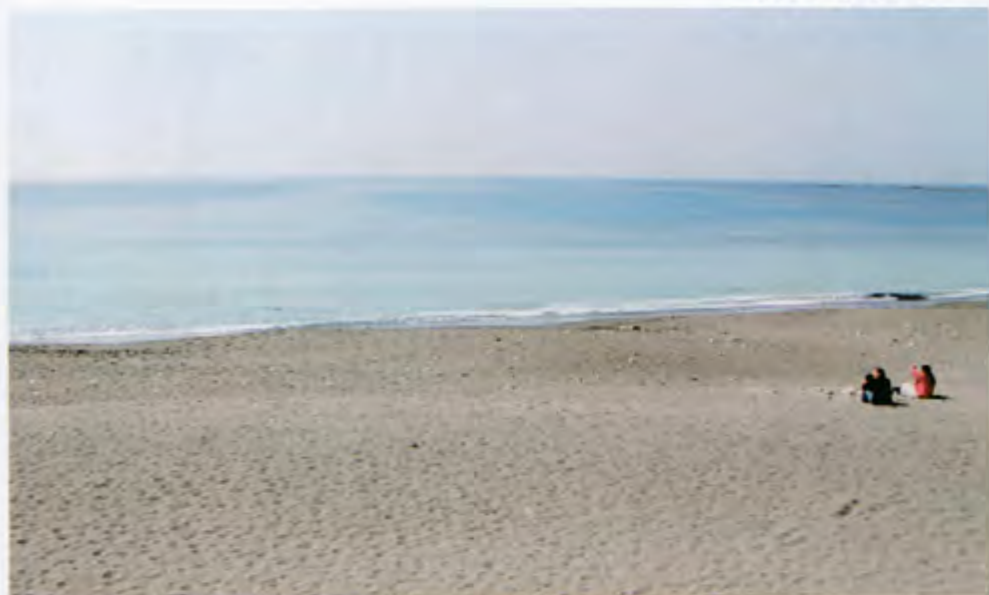
TEL 〇三―五三六八―一八七〇

FAX 〇三―五三六八―一八七〇

E-Mail bcb10324@nifty.com



名村早智子



堇
(すみれ)



春の海
(はるのうみ)

かたまつて薄き光の堇かな
すみれ踏みしなやかに行く牛の足
渡辺水巴
秋元不死男

春の海竜のおとし子捨ひけり
春の海むかしのごとく天守より
幸田露伴
山口青邨



イラスト 田中丸葉子

蓬よもぎ

俎の蓬を刻みたるみどり

山口誓子

ひざまづき蓬の中に摘みにけり

高野素十

押へてもふくるる籠の蓬かな

下田実花

小学生のころ、春の暖かい日曜日がくると、母とよく餅草摘みにいった。家の裏手の方に少しいくと、一面に田んぼが広がっていて、その畦道の餅草を摘むのである。

摘んできた餅草は茹で、芯を取り、餅米と一緒に餅を搗くと、みどり鮮やかな草餅が揃きあがったものだ。

その草餅に餡をつけたり黄粉をまぶしたりして食ったのだが、そのときの草のにおいの強さが大好きだった。

それでいまも草餅は好きなのだが、買って食うようになったら、どこで買ってもあの草のにおいがしないのである。

釣りにいって身辺の餅草を千切ってにおいをかいでもかつてのにおいがしない。

そういえば、トマトにも昔のにおいなくなっちゃった。芋焼酎にもにおいのないものが多くなった。

あれこれの記憶と共にいろんなにおいが遠くへ去ってしまったようだ。

(大崎紀夫)

特別作品25句

去年今年

今瀬剛一

手付かずの今日があるなりシクラメン

発掘の壺の完形山眠る

ねんねこのねんねんころり恋ひしかり

季語は財産埋火を掘り起こす

夜咄やかたかたと鳴る障子欲し

狐火の先頭に母燃え尽きし

特集

〈口語俳句について〉

近ごろ、時おり、俳句の散文化、口語俳句が話題になっています。それらについて、その賛否を安易にいう前に少し考えることが必要かと思われます。

口語俳句はこれからの時代に増えていくかもしれず、その辺りも含めて口語俳句について自由に思うところを8人の俳人にお書き頂きました。



前列右から 藤本氏、川上氏、広瀬氏
後列右から 本多氏、横橋氏、星野氏

ゲスト

川上良子・根橋宏次

広渡詩乃・本多 燐

ホスト

星野高士・藤本美和子

編集部 超結社句会第43回目です。ゲストは「未来図」同人の川上良子さん、「やぶれ傘」同人の根橋宏次さん、「葉」同人の広渡詩乃さん、「都市」同人の本多燐さん、ホストは「玉藻」主宰の星野高士さん、「泉」主宰の藤本美和子さんです。遠慮のない意見交換をお願いします。

高士 では、初句会を始めたいと思います。今日は満点という景気のいい句がありました。

白波は湖のどこにも凍豆腐

（真詩燐高美）

詩乃 初句会で素晴らしい句を頂いたと思います。「凍豆腐」が上手いなあ、と思いました。寒い風も感じられて、景がよく見えていいなと思いました。

燐 わたしも「凍豆腐」の付き方がいいと思いました。風が抜ける感じがこの「凍豆腐」をおいしくさせているんじゃないかと思いました。「湖のどこにも」は、あまいかなという感じはするんですが、初句会としては採らざるをえない。

美和子 湖の広さみたいなものが見えてくる。広く捉えて、徐々にアングルを絞って「凍豆腐」に持って来ている。着地